

ドラゴンの絵

本堂と呼ばれる久遠寺の本堂は、日蓮宗の中でも最もよく知られ、愛されているお堂の一つです。本堂は独特の建築デザインで、精巧な装飾が施されています。1875 年（明治 8 年）の大火で本堂は焼失しましたが、長い年月を経て本堂全体が再建され、1985 年（昭和 60 年）に新本堂の開門式が行われました。その際、天井一面に描かれた「墨龍画」がお披露目されました。

白黒画は、日本画家の加山又造（1927～2004）の作品です。加山又造は東京藝術大学教授であり、数々の賞を受賞した画家でもあります。金箔で描かれた五本爪の龍が 9 平方メートルにもわたって描かれています。龍の中でも最上級のもので、仏教神話では重要な神話上の生き物です。

久遠寺の龍は 9 種類の動物のパーツで構成されています。頭はラクダ、目はウサギ、耳は牛、角は鹿。龍の首は蛇、前足は虎、鷹の爪、鯉の鱗、腹はコモドの龍です。

龍の絵は、本堂のどこに立っていても、龍の目が参拝者を追いかけているように見えるようにデザインされています。これにより、龍が本堂を見守り守っているような印象を与えます。